春も牛乳！

交牧連会員のみなさまへ

私のおすすめする飲み方・食べ方

SNS等で発信しよう！

■期間：令和４年３月中旬～令和4年５月上旬

■内容：SNSやホームページで、**継続的に**以下を発信する。

①消費者の皆さまへの、**年末年始の応援消費への「お礼」**

②**わたしのおすすめする“牛乳の飲み方・食べ方”**

＃（ハッシュタグ）をつけてね！**＃交牧連　＃春も牛乳**

■コロナ禍の影響が続く中、処理不可能乳の発生が危惧された「**年末年始**」は、**消費者の皆さまからの応援消費のおかげで、危機を乗り切る**ことができました。

■しかし、業務用需要が戻らない中、生乳生産量が増える**3月中旬～5月上旬には、再び処理しきれない生乳の発生が危惧**されています。

■**酪農家や酪農関係者である私たち交牧連会員が**、消費者の皆さまに対して、年末年始のお礼とともに、**牛乳のおいしさ、素晴らしさをSNSやホームページで発信**することが、現状を少しでも良くする追い風になると思います。

ぜひ、ご参加ください！

年末年始は、牛乳をたくさん飲んでいただき、ありがとうございました！
この春も、おいしい牛乳をぜひご賞味下さい。私は**優しくて、まろやかな「ミルク甘酒」**がおすすめ！
＃交牧連　＃春も牛乳

いつも牛乳を飲んでくださり本当にありがとうございます！
暖かくなってきたら 冷たく冷やした「コーヒー牛乳」がおいしいですよ～
＃交牧連　＃春も牛乳

＃交牧連　のついた投稿につきましては、交牧連及び中央酪農会議のHPやSNS、機関誌等でご紹介させていただく場合がございます。予めご了承ください。

地域交流牧場全国連絡会

（一社）中央酪農会議　業務部 担当：竹中・阿南・齋藤

〒101-0044　東京都千代田区鍛冶町2-6-1　堀内ビルディング４階

TEL：03-6688-9841 ／FAX：03-6681-5295 e-mail：koubokuren@churaku.jp

DFニュース　2022年3月号

発行日／2022年3月　発行／地域交流牧場全国連絡会　〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2－6－1 堀内ビルディング4階（一社）中央酪農会議内

TEL03－6688－9841　FAX03－6681－5295　ホームページ https://www.dairy-farm.jp/

地域交流牧場全国連絡会

令和４年３月発刊

DAIRY FARM NEWS

3月号 2022

DF NEWS

WEBを活用して、仲間とつながる！

全国研修会／牧場WEB視察研修会

WEBを活用して、仲間とつながる！

全国研修会／牧場WEB視察研修会

コロナ禍により、交牧連の活動もままならない状況が続いています。コロナが落ち着いたタイミングで対面による活動を実施できたブロックもありますが、全国の活動としては丸２年間、対面での活動ができていません。そうした中、継続してきたのが「WEBを活用した取り組み」です。

令和２年度、最初のWEB会議以降、失敗もあり、課題がうまれ、試行錯誤して改善策を考え、次につなげてきました。そして、WEBに慣れていなくても、勇気を出して初めてのことに飛び込んでいただける方がいたおかげで、徐々に参加者も増えてきました。

今回のDFニュースでは、WEBを活用し始めて２年、令和３年度の後半に取り組んだ２つの取り組みについてご紹介します。

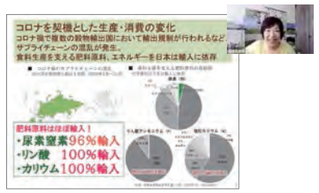
取り組み-1　令和３年度全国研修会

「日本酪農の役割を確認し、持続的な発展に必要なことを考えよう！」

■**日　時**：令和３年12月16日（木）　研修会：13：00～16：00／懇親会：19：30～21：30
■**参加者**：43名

今回の全国研修会は、２年ぶり、初のWEB開催となりました。一つ目のプログラムでは、農業ジャーナリスト・小谷あゆみさんによる基調講演「日本酪農の役割を再確認　ニュー農マル時代～共生する酪農」を行いました。畜産番組のリポーターとして全国の牧場100ヶ所を訪問した経験等に基づき、事例を踏まえながら、「農」をオープンにして生産と消費を近づけることの重要性等についてお話いただきました。

二つ目のプログラムは、グループディスカッションです。参加者がZOOMの機能を使って４～５人ずつに分かれて話し合いました。１回目は「日本酪農が果たしている役割にはどんなものがあるだろう？」、２回目は「明日から自分自身ができることは何だろう？」というテーマに沿って、活発な意見交換を行いました。



また、当日の夜、交牧連の全国活動としては初めてのオンライン懇親会も開催。自宅にいながら、久々の仲間同士で楽しく情報交換をすることができました。

持続可能な世界のために「明日から、私は○○をやる！」

参加者からの感想

- 「卒業アルバムに酪農家になりたいと書いてくれる子を増やす！」と思いながら活動していましたが、今日、小谷さんの言われた「知らなければ憧れられない」という言葉が、とても響きました。
- インスタを始めたばかりですが年末年始の消費拡大をどんな風に伝えたらいいか、試行錯誤していました。ヒントがいっぱい！ 考えるのが楽しくなってきました。地域の人々とも楽しくやりたいな～。
- リラックスした状態で話ができるので、オンライン懇親会もいいなと思いました。

取り組み-2　令和３年度牧場WEB視察研修会

■**日　時**：令和４年２月２日（水）13：00～15：00
■**参加者**：63名

令和２年度の本部農場（宮崎県）に引き続き、今年度も牧場WEB視察研修会を開催。今回は、柿澤牧場（神奈川県）とclover farm（富山県）の２つの牧場をWEB上で視察しました。

柿澤牧場は、閑静な住宅街の中にある牧場で、すぐそばには民家やマンションが立ち並んでいます。「そうした環境でも周辺住民から苦情等がないのは『開かれた牧場』にしているから」と柿澤さんは言います。また、糞尿処理施設も詳しく見せていただきました。糞尿に水をかけて絞り、その排水は許可を得て公共の下水に流します。これにより、ハエ抑制・消臭対策につながっているそうです。さらに、交牧連活動や酪農教育ファーム活動が、周辺住民との良好な関係性を築く一助になっているとともに、柿澤さんご自身のモチベーションアップにもつながっているというお話もしていただきました。

clover farmの青沼さんは、平成27年に富山県高岡市にて新規就農されました。今回は、牧場を開設して以降、自らの手で徐々に設備を増やしていった7年間の牧場の変化を紹介して下さいました。参加者からは「手作りなの!?」「大工みたい」「発想がスゴイ」等、驚きのコメントがたくさん寄せられました。また、clover farmでは地域循環と経費の節減のため、地域の稲作農家と契約した飼料用米やカット野菜工場から出る野菜くず、おから、酒粕、トウモロコシの芯を使った廃菌床（キノコ栽培の培地）など、様々な飼料を活用しています。それを詳しく説明していただきました。

参加者からの感想

- それぞれの牧場の個性やがんばりを見られるのは本当に貴重なことです。参加者からも積極的に質問やつぶやきが書き込まれていました。素晴らしいと思いました。司会の方の話し方と声がプロみたいに素敵でした！
- 動物を飼っていると研修のために現場を離れるわけにいきませんが、webであれば移動せず全国各地から簡単に研修にアクセスできるのでとても良いと思いました。
- 研修会にはすべて参加できる訳ではありませんが、いつも思いがけない収穫があります。これからもできるだけ参加しようと思います。
- 普段現場に出たりすることがないので、WEBという手段を使って牧場を見学できるのはとても新鮮で、コロナ禍でなくても、新しい知識を得る場として今後もいろいろな場で活用されればとてもうれしいと思いました。